

土浦試合開始

～土浦市を愛し始めよう～

TA:飯田マリ

班長:土居千紘 副班長:今井純 議事録:樋口雄一 書記:森英高

1. 目指す都市像

1-1 土浦市の現状

現在の土浦市は、駅の正面に存在するイトーヨーカドーの撤退やモール 505 の衰退など、中心市街地が全体として衰退している。また、土浦固有の資源である霞ヶ浦は活用が住民によって希望されているが、水質は非常に悪く、また駅から距離的に近いにもかかわらず身近に感じることはできない。更に新治のように少子高齢化が進んでしまい、公共交通が十分ではなく、おおつ野のように今後発展が見込まれている地区と中央がつながっていない。結果としてコミュニティが十分に形成されていない。

1-2 コミュニティの重要性

社会全体の傾向として、2011 年 3 月 11 日に発生した東に本題震災などが発生し、コミュニティの形成の重要性があがっている。そのような中、土浦市民における地域コミュニティの重要度は高まっている。一方、土浦においては地域コミュニティが良好であると考えている人の割合は全体の 20%に留まっている。更に、土浦市民のコミュニティに対する満足度は減少している傾向にある。今後の土浦において地域コミュニティを形成することは非常に重要であると考え。また、高齢化社会が進んでいる現状において、今後高齢者のコミュニティも重要性を増し、そのような高齢者が健康で生き生きと暮らせることができるまちを目指すため、私たちはスポーツを主体としたマスタープランを作成することを提案する。

1-3 都市イメージ

私たちはスポーツを主体としたマスタープランを作成することにより、「土浦市を愛し始めよう」をスローガンとしてコミュニティ形成やスポーツの振興を目的とした“つちうらの輪”を支える、公共交通整備やロータリー整備などを目的とした“つちうらのみち”をつなげる、霞ヶ浦・筑波山・レンコンなどの農産物の“つちうらの資源”を守る、土浦駅を中心とした“つちうらの開発”で攻める、というものを4つの柱とし、マスタープランの政策に取り組んだ。



図1 都市イメージ図

1-4 人口フレーム

上記のようなマスタープランを策定・実施することで土浦市民が土浦という土地そのものを愛し始め、住民の定住を図る。また、各種提案やイベントにより土浦固有の霞ヶ浦・筑波山・農産物などの“ブランド力”を向上させ、観光客を惹きつけ、現状である14万人という人口を維持することを目標とする。

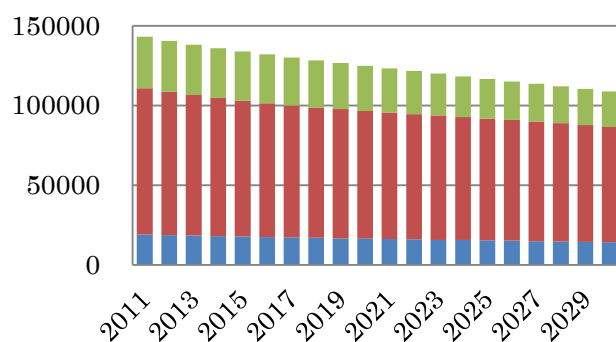


図2 土浦市人口予測

2. 地区別構想

2-1 新治地区

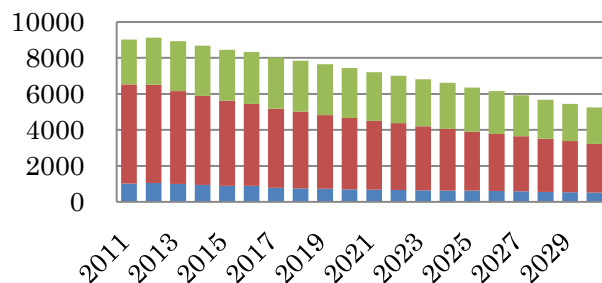


図3 新治地区人口予測

新治地区は筑波山や農地など自然環境が豊かであり、またスカイスポーツも有名である。その一方、それらの資源を活用した観光がなされていない。新治地区においてはそれらの資源を活かすことで人口の減少を抑えることを目標とする。

2-2 神立地区

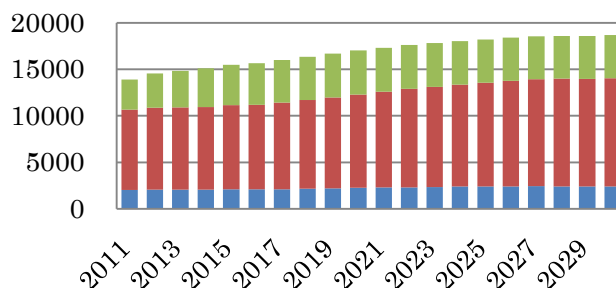


図4 神立地区人口予測

神立地区には、幹線道路沿いに工業団地が存在し、教条と住民の共存が課題として挙げられる。工業団地内に存在する運動施設を活用することで、住民との交流を図り、今いる住民を定住させることを目標とする。

2-3 おおつ野地区

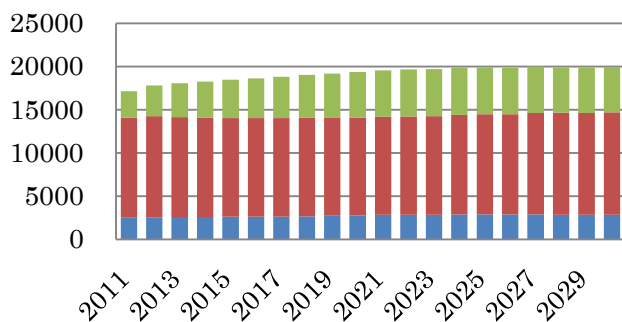


図5 おおつ野地区人口予測

おおつ野地区は現在も開発が進められており、人口が増え続けている。また、協同病院が移転されることで更に人口が増えることが予想される。新しいコミュニティが形成されるため、複合運動施設を新設することで、スムーズにコミュニティを形成し、今後も人口を増え続けることを目標とする。

2-4 荒川沖地区

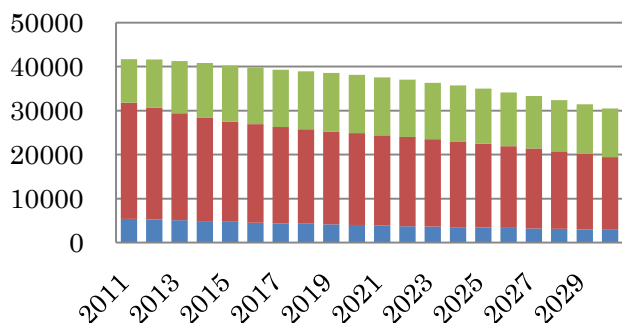


図6 荒川沖人口予測

荒川沖は多くの住宅が存在し、人口が多い地区である。それに対して憩いの場となる公園などが少なく、コミュニティ形成がしにくいと考えられる。したがって荒川沖においてはポケットパークを整備することでスポーツする環境を整えるだけでなく、憩いの場を提供することを目標とする。

3. 重点計画

3-1 スポーツの振興

3-1-1 スポーツの重要性

土浦市での死因別死亡者割合を見ると、死因の約58%が生活習慣病となっている。健康面で見ても非常に高い数値であるとともに、経済面から見ても土浦市の医療費は生活習慣病の原因となるものに多く費やされていることがわかる。厚生労働省生活習慣病予防特集の中で「生活習慣病は個人が日常生活の中で適切な運動をすること

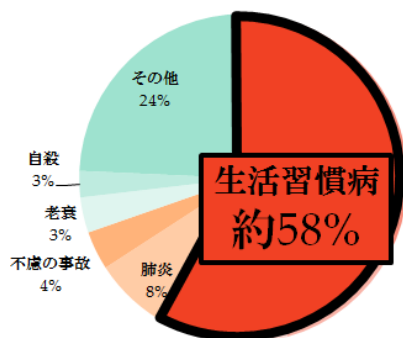


図7 土浦市死因別死亡者割合

のよって予防することができる。」と記載されている。

また、スポーツをより行う者の方が行わないものに比べ地元コミュニティ活動への積極度が高くなるということがわかっている。

以上の面から、スポーツを行うことによって健康面だけではなく医療費の低減、更にはコミュニティ強化にもつながるということが出来る。

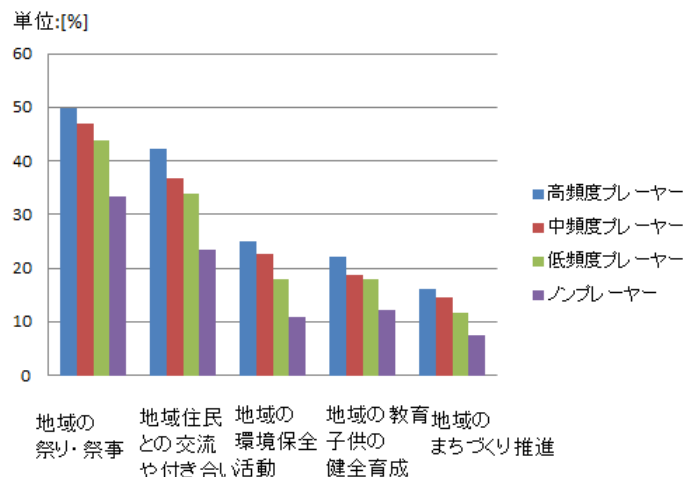


図8 スポーツによるコミュニティの積極度

3-1-2 土浦でのスポーツの現状・課題

土浦市において、霞ヶ浦マラソン・体育協会主催の各種大会・市民体育祭など数々の大会が実施されている。また、新治で行われている筑波山を活かしたスカイスポーツ、霞ヶ浦を活かしたマリンスポーツなど、土浦固有の資源を活かしたスポーツがある。

しかし、市のスポーツ振興課へのヒアリングから、スポーツ施設への登録団体数に比べて施設数が不足していることが分かり、施設を増設が課題として挙げられている。また、市民の考えとして、運動不足であると感じている市民は全体の85%、これから運動を始めたいと思っている市民は全体の65%と高い数値を示しており、スポーツの普及そのものも課題として挙げられる。更に、土浦市は日常生活の中で楽しく運動を取り入れること、体を動かすことの楽しさを体験できるきっかけを作ること、運動を継続できるように一緒に運動を行う仲間作りを行うことなどを課題としてあげている。

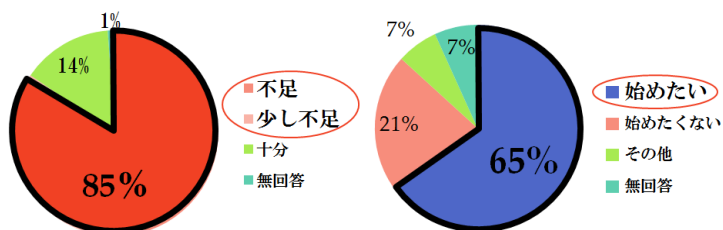


図9 運動不足と感じますか 図10 運動を始めたいと

思いますか

3-1-3 スポーツの提案

運動を行える場所として、神立に存在する工業団地内にある施設を利用すること、荒川沖にポケットパークを整備すること、更におおつ野に複合運動施設を新設することを提案する。

また、土浦市民への運動への考え方、土浦市があげたスポーツの課題に対しては“チャレンジ・ザ・ゲーム”の導入を提案する。チャレンジ・ザ・ゲームとはグループで交流しながら遊び感覚で運動することができるスポーツのことである。1年中いつでもどこでも行うことができ、多彩な種目があるため、その人にあったスポーツを探すことが可能である。

更に、これらのスポーツへの取り組みを行うことによって、まずスポーツを実施していない人たちにはチャレンジ・ザ・スポーツに取り組んでもらい、スポーツへのきっかけを作ってもらい、それにより地域レベルで開催されている市民体育祭や市民ウォークラリーに興味を持ってもらい参加してもらい、これによりコミュニティの強化も図ることができる。更にスポーツを実施することによってスカイスports・マリンスportsなどの土浦の資源を活用したスポーツに興味を持ち参加することや、霞ヶ浦マラソンなどの大規模なイベントへの参加を促す。

3-2 土浦駅再開発

3-2-1 土浦駅周辺開発

現在市が検討中である、土浦市役所合同庁舎を撤退することが決まっているイトーヨーカドーへの集約を提案する。市役所をイトーヨーカドーに集約することによって土浦中央地区の活性化や、災害時の駅前避難所として市役所を使用することができるなどの効果が考えられる。この際、必要延べ床面積である 22000 m²に 7000 m²不足するため、県南生涯センターを現在検討中の駅北開発予定地域に移設させる。駅北開発地域には現在図書館が新設されることが予定されている。駅北開発予定地区には更にウララ内に存在する既存商業施設を移設させることで、学習・商業の役割を持たせる。

3-2-2 モール 505

市役所をイトーヨーカドー跡地に集約させ、駅北側開発が進むことによって、駅の機能が北側に移ることが考えられ、それと同時に流動人口も北側に移ってくると考えられる。それに伴って既存のモール 505 を再開発することを提案する。

モール 505 の管理者へのヒアリングの結果、問題点として商店が統一されていないこと、大型ショッピングセンターとは対等に戦うことができないことなどが挙げられた。一方、営利目的以外の団体を積極的に支援したい、日中にふらっとよれるモールにしたいなど、モール 505 の目標像も同時に見えてきた。私たちはこのような意見を参考にし、モール 505 を地元住民が触れあい、コミュニケーションを図ることのできる場所とすることを目指し、モール 505 を「リラクゼーションエリア」として整備することを提案する。



図 11 モール 505 イメージ図(1)



図 12 モール 505 イメージ図(2)

モール 505 を改修することによる費用は表のようになる。テナント料は 1 店舗 6000 円であり、10 店舗誘致することを考えた。また、利益は 1 日 100 人が 500 円を使用した場合を考えた。以上の条件で収支を計算すると、約 1 年で採算が取れることになる。

表 1 モール 505 費用

整備費用[万円]		月間収支[万円]	
モール505解体費用	378	テナント料	6
壁面改装	3150	利益	300
一部芝生化	15	芝生ランニングコスト	▲2
水路用水代	7.9	景観整備費用	▲10
水路用循環ポンプ	4		
水路用浄水器	90		
整備費用合計	3644.9	収支合計	296

3-2-3 ロータリー整備

現在のロータリーは進入規制違反が多く、また、歩行者と車との動線が交差しており、非常に危険である。

そこで私たちは用途でロータリーを分けることを提案する。バスはターミナル型のバスロータリーを作成し、自家用車には専用の乗降者専用レーンを設置し、タクシープールには障害者用の駐車場を作成し、最短でエレベーターを使用できるように配慮した。以上のようにバス・自家用車・タクシーを用途別に分別することで動線を単純化し、歩車分離も可能としている。

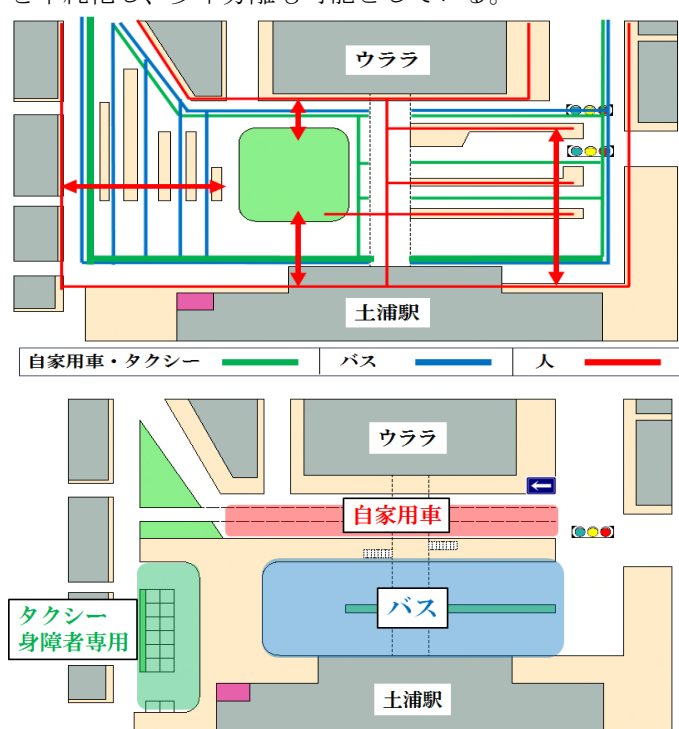


図 13 ロータリー改修前後

3-3 霞ヶ浦の利用

3-3-1 霞ヶ浦の顔づくり

霞ヶ浦に面しているエリアを3つに分け、それぞれに機能を持たせることを提案する。

1つ目の顔はおおつ野であり、おおつ野内にある霞ヶ浦環境学センターと連携することで「エコタウン おおつ野」を目指す。また、既存のハス田などを活かし地元農家との新たなコミュニティを形成させる。

2つ目の顔は霞ヶ浦総合公園とし、自然を満喫できる場所にするように提案する。霞ヶ浦に触れることのできる親水空間としてビオトープの拡充や人口砂浜周辺を整備する。また、スポーツ活動の場として、施設の改修を行うだけではなく、土浦市レベルでのスポーツイベントを実施することを提案する。

3つ目の顔は中央であり、主に観光としての顔を持たせる。土浦駅東側にある川口運動公園からラクスマリーナ地区は駅が近いにもかかわらず市民や観光客などの一般人が霞ヶ浦付近まで近づきにくい空間となっている。ヒアリングの結果、ラクスマリーナ周辺は緑地化が考えられているため、霞ヶ浦と面している土地を緑地化し、更に遊歩道を整備することを提案する。これらにより誰もが近づきやすい霞ヶ浦作りを目指す。



図 14 霞ヶ浦イメージ図

3-3-2 霞ヶ浦のイベント

更に、土浦市・茨城県どちらにおいても冬の観光客が少ないことから、土浦市固有の資源である霞ヶ浦で新たなイベントを開催することを提案する。これにより、土浦市民は霞ヶ浦を寄り身近に感じてもらい、観光客には霞ヶ浦を土浦市のブランドであるということをアピールして行く。



図 15 クリスマスポスター

具体的には、冬の霞ヶ浦の湖上に電飾された約 50m のクリスマスツリーを設置することを提案する。またイベント内において地元特産品を活かした食事を提供することで霞ヶ浦だけではなく、その他の土浦のブランドも確立することができると考えられる。

4. まとめ

スポーツを中心としたマスタープランを作成することでコミュニティの強化とともに、土浦を支え、つなげ、守り、攻めることで土浦市民が土浦という土地自身を愛し始める環境は整った。まだまだ試合は始まったばかり。ここから土浦のブランド力を上げ、コミュニティ主体の健康で生き活きと暮らせる町を作っていく必要がある。

〈協力〉
土浦市役所 都市計画課
東郷様 長坂様
株式会社ラクスマリーナ
秋元様
株式会社モール 505
高野様
土浦市役所 スポーツ振興課

〈参考文献〉
・土浦市 HP
・厚生労働省 HP
・おおつ野ヒルズ
・チャレンジ・ザ・ゲーム
http://www.recreation.or.jp/challenge_the_game/reports.php
・土浦駅北口再開発
<http://www.tsukuba-housing.org/PDF/tsuchiura2.pdf>
・ブラジル クリスマス
<http://komachi-machi-machi.blogspot.com/>
・霞ヶ浦環境科学センターHP
・JA つちうら公式サイト
・財団法人土浦市農業公社 HP
・鈴木建商 HP
・大東建設 HP
・株式会社シグマ HP
・株式会社ポラリス HP
・熊本駅
・はこだてクリスマスファンタジーHP
(最終閲覧日：2012 年 2 月)